

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援センター クローバー		公表日		R7年3月31日	
	チェック項目	(はい)	(いいえ)	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動により放課後等デイサービスのスペースを利用するなどしている。	活動の幅を広げる利用年齢や特性により活動を分けて療育を行うことなど新たな取り組みを行ってきたい。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	3	3	朝の会までの時間に身体をたくさん動かす遊びを取り入れるなどし、子どもが集中して活動に参加出来るようにしています。	スタッフの勤務日数や急な休みなどへの対応を考慮するとスタッフの増員の必要を感じている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・Wi-Fiを設置し、音楽活動の幅が拡大した。 ・絵カードや写真カードなどを有効に活用し、伝えたい事が子供たちに届くよう工夫している。 ・視覚的な配慮や動線も考慮し注意集中が持続できるようにしています。	その時々利用児の特性に合わせてリニューアルを繰り返しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		清潔、安心、安全を心がけています。感染予防対策も感染症の種類により対応を変えて実施しております。	コロナ禍以降、年間を通し様々な感染症が見られるようになりました。市内の感染状況の把握、様々な感染症に関する知見を深めていきたいと考えています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		カーテンやパーテーション、別室の活用、活動に入らず見学をするなど、本人の特性に合わせた対応、環境を準備しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		日々の療育後及び月1回のカンファレンスに全職員が参加しています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		年1回の評価結果を参考に次年度必要な取り組みを行っています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		日々の療育後及び月1回のカンファレンス(全員参加)にて実施しています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6	実施しておりません。	外部評価を実施してきたい。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		法人内外研修に参加して知識を深めています。外部研修などはその内容を職員内で共有し療育へ生かすようにしています。	日々研修を積み重ねなくてはなりません。職員間でリスペクトしながら互いに意見交換できる関係を構築してきたい。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		法人ホームページで公表しております。	公開日の共有。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		日々の成長の確認も含め、スタッフ全員で検証、検討した内容をもとに計画を立案しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		毎月1回全員のカンファレンスを実施。課題を抽出し、療育にいかせるよう支援計画の立案を行っています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		毎月1回全員のカンファレンスを実施。成長と課題を確認しながら支援に取り組んでいます。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		日々の療育後及び月1回のカンファレンス(全員参加)にて確認しています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		毎月1回全員のカンファレンスを実施。課題を抽出し、療育にいかせるよう支援計画の立案を行っています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		子どもの特性やその時々状況に合わせて工夫しPDCAサイクルにてリニューアルしながら活動プログラムを立案しています。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		同じタイトルでも内容をリニューアルしながら実施しています。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		集団活動以外の時間を利用し個別に必要なかわりも行ってあります。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	1	療育開始前にミーティングを行い、その日の内容を確認して行っています。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		療育終了後、子どもたちの支援に対する振り返りを行っています。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		個々の記録ファイルがあり、情報をまとめて管理しています。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		保護者の声を大切に受け止め、支援計画に生かしております。		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		児童発達支援管理責任者が出席しております。		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		多角的な視点でご本人及び家族全体を支えられるよう連携しております。		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		子どもは子どもたちの中で様々なことを学び育っていきます。地域の幼稚園、保育園、認定こども園などの併用を進め、互いに行えることを共有しそれぞれで力が発揮できるよう支援しています。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		保護者の方々に了承のもと情報共有を実施しております。		
	28	(28～30は、センターのみ回答)					
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	6		併用利用しているお子さんも多く、連携を密にしております。		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	6		専門職が勤務。外部研修も参加しております。		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	6		自立支援協議会、伊東市や東伊豆町の療育教室などにも参加しています。		
	31	(31は、事業所のみ回答)					
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。					
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6	立地環境の関係で他園との交流は難しいですが、利用児には地域の幼稚園、保育園、認定こども園との併用利用を進めています。		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		連絡帳を活用したり、送迎の際に積極的にコミュニケーションを図り、共通理解を持つよう努めています。		
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		家族が参加出来る研修などは情報発信しております。		
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		利用開始時の契約の際に分かりやすく説明の機会を設けております。			
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえ、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		保護者の方々とは常に話しやすい関係でいられるように努めております。			
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		文章では表現できないニュアンスも含め丁寧に説明するよう心掛けています。			
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		お声かけに対してはもちろん、日頃の様子や連絡帳でのSOSなどを察し、こちらからの声掛けも行っています。相談内容には真摯に対応しております。			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		積極的な交流を望まない方もおられるため、参観日に行う茶話会を通して交流の機会としています。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		迅速に対応しています。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月お便りを発行。活動の写真や囁託医からの病気対応方法アドバイス、連絡事項、行事予定などを掲載しています。SNSは活用しておりません。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		留意している。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		子どもにはジェスチャーやサイン、絵カードを活用してコミュニケーションを図っています。保護者とは送迎時のコミュニケーションを大切にしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	2	見学は常に受け入れています。過去には併用先の園の先生方や学生さんの見学の受け入れを行っています。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各種マニュアルは療育室内で閲覧可能です。また、訓練の様子をお便りで報告しています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		事前に必要事項の確認を行い、支援させて頂いています。	日々の体調の変化やその時々服薬状況の把握にも努めています。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		アレルギーに関する確認書類を毎年記入提出していただいております。医師の指示に基づく対応を実施しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		定期的に検証しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		お便りなどでお知らせしています。	ご家族との連携やわかりやすい発信方法を今後も検討していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		発生時にはスタッフ全員で原因分析を行い、必要な対応策を検討、実施しています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		研修の実施と共に、不適切な対応の有無について毎月協議しています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6		研修の実施と共に、身体拘束実施者については解除に関する検討も毎月行っています。		